

## 令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	圧縮秘匿計算による大規模データ処理
研究代表者	定兼 邦彦 (東京大学・大学院情報理工学系研究科・教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p><b>【課題の概要】</b></p> <p>本研究は、圧縮秘匿計算という、秘匿計算、圧縮索引、圧縮計算で構成する新概念を提唱し、この技術をゲノム医療解析や自然言語等の非定型データのビッグデータを圧縮して暗号化し、そのまま解析を行うものである。</p> <p>具体的には、応募者がこれまでに積み上げてきたデータ圧縮技術とデータ秘匿技術を融合させ、圧縮秘匿データ解析技術の開発を目指す。</p> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b></p> <p>圧縮秘匿データ解析技術の開発を複数の要素技術を融合して行うもので、相乗効果により理論的にも重要な研究成果が見込まれ、その学術的意義は大きい。また、ゲノムデータなど極めてプライバシー性の高いデータの利活用などの実用性や、機械学習への応用・展開も包含しており、世界的に見ても、独創性が高い研究であり、社会的な波及効果も大きい。</p>